

平成29年度中山間地域道路等維持補修業務委託業務評価

中山間地域道路等維持補修業務委託は、平成21年度から実施し9年間にわたり宮下地区建設業協同組合が受注し、この地域の公共土木施設の管理を支えてきた。公共土木施設の維持管理を取り巻く環境は、施設の老朽化に伴う維持管理費用の増や地域の維持管理を担う地元建設企業従事者の減少等非常に厳しい状況にある。しかしながら、この地域は、日本でも特に高齢化が進んでいるため、道路等への安全・安心が強く求められている地域である。

そのため、中山間地域道路等維持補修業務委託においても、更なる効率化・高度化が求められていることから、各年度終了後、組合構成員ごとに業務の自己評価及び発注者である宮下土木事務所、各町村の担当者がそれぞれ評価する取組を実施し、業務の更なる改善を図っていくこととした。

1 平成28年度の委員会の意見

取組み	課題	検討の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 第三者による評価(委員会、利用者アンケート、企業モニタリング、自己診断) 	<ul style="list-style-type: none"> より客観的な評価による説明性を高める努力が必要 各組合員の意識や姿勢における温度差または慣れや緊張感の欠如を防止する仕組み 地域住民にとって分かりやすい評価と結果の報告 統一的・持続的な評価手法 	<ul style="list-style-type: none"> 評価シートを活用した事後評価の仕組みづくり

2 評価のポイント

- 受注者である宮下地区建設業共同組合の業務内容について評価を行う。
- 業務について、第三者から見て適正であるか。
- 組合員の作業事例や様々な取組みについて評価を行う。

3 評価の概要

1) 自己評価

維持管理の実施状況や業務上の工夫、情報発信などについて、項目ごとに各組合員が状況を記載し組合員、組合、県の順で評価を実施した。

2) ユーザー視点の評価

道路利用者のアンケート調査による評価。組合の業務内容の評価であるため、発注形態、業務内容を理解しており、各地域での組合の活動をいつもみている町村の建設課に依頼した。

評価項目		受注者	発注者	町村	有識者	
1) 自己評価	業務実施状況	仕様書項目の履行	自己評価	評価	—	助言等
	業務実施上の工夫	提案内容への取組み	自己評価	評価	—	助言等
2) ユーザー視点の評価	事業効果	取組内容の評価	—	資料等整理	評価	助言等

4 町村による評価

1) 調査対象の選定理由

道路ユーザーの代表として、各町村の建設課に依頼してアンケート調査を行った。

町村の担当者は、中山間道路等維持管理業務委託の実情を把握した上で、維持管理予算の中での宮下地区建設業協働組合の作業内容を純粹に評価できると考え依頼した。

2) 調査内容

- ・夏期作業の安全管理(交通誘導、安全看板、安全対策、服装態度)
- ・夏期作業の品質
- ・除雪や雪庇落としの安全管理(交通誘導、安全看板、安全対策、服装態度)
- ・除雪や雪庇落としの品質
- ・緊急時の迅速な対応

3) 評価結果

	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	H社	I社	J社
平均	1.38	1.38	1.47	1.45	1.47	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

5段階評価(1適切良 → 2概ね適切 → 3ほぼ適切 → 4やや不適切 → 5不適切悪)

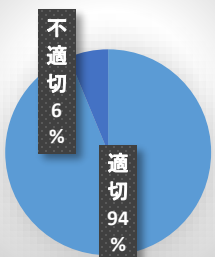
アンケート項目	平均点
1-1 夏期の作業の交通誘導	1.25
1-2 安全管理 安全看板の配置	1.00
1-3 周辺配慮 周辺住民への説明	1.00
1-4 作業中の安全対策	1.44
1-5 作業中の服装や態度	1.00
1-6 作業の仕上がり	1.50
2-1 冬期の作業(除雪、雪庇落とし等)の安全管理	1.00
2-2 冬期の安全管理 安全看板の配置	1.00
2-3 冬期の周辺配慮 周辺住民への説明	1.00
2-4 冬期の作業中の安全対策	1.38
2-5 冬期の作業中の服装や態度	1.00
2-6 冬期の作業の仕上がり	1.82
3-1 異常気象時のパトロール	1.00
3-2 異常気象時の対応	1.00

評価結果

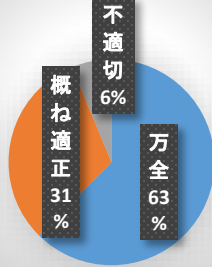
・各社の評価
5社については、1.0と全てにおいて適切となった。
残りの5社についても概ね適切であったが、一部の項目で適切性を欠いていた。

・項目ごとの評価
夏期、冬期ともに交通誘導や安全対策、仕上がりについて一部でやや適切性を欠いていた。

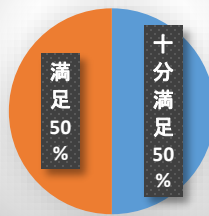
1-1 夏期の作業の交通誘導



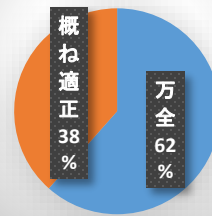
1-4 夏期の作業中の安全対策



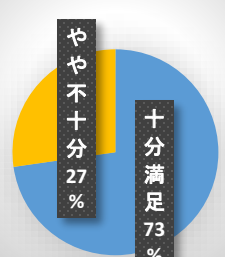
1-6 夏期の作業の仕上がり



2-4 冬期の作業中の安全対策



2-6 冬期の作業の仕上がり



6 作業事例



1) 国道252号において、豪雨により法面が崩落し緊急に対策を行った。

非常に急峻な法面において水処理を行いながら、大型土嚢を積み上げ法面の安定化を図った。

発見後速やかにクレーン設置個所の架設工事、土嚢作成、ふとん籠、排水処理を迅速に行い約1週間という短い期間に完成させた。



2) 柳津昭和線の縦排水の老朽化による周辺法面の浸食。法面の縦排水の老朽化が激しく、排水が周辺に飛散し、法面を削り危険な状況であった。

施工業者の工夫で、工期が短く、施工性が良く、コストが低いコルゲートパイプにより施工し早期に完成させた。

7 平成29年度の新たな取組

1) 担い手育成事業

宮下地区建設業共同組合の作業員の高齢化率は非常に高く、担い手の確保が重要な課題となっていることから、組合では担い手育成事業を行っている。



西山小学校での啓蒙活動

はじめに、土木とはどんな仕事をしているのか授業を行い、次に学校内の壊れている施設や不具合のある箇所の修繕や改善を、児童と組合員が共同で作業を行う。作業を通して「ものづくりの楽しさ」「改善された喜び」「感謝される喜び」を共有する。

今回の西山小学校では、通路が急勾配のため冬期間凍結により滑って転ぶなど危険なので、アスファルト舗装からコンクリート舗装として表面にホウキ目をつけて滑らないように工夫した。

2) 担い手育成事業



除雪車のオペレータの高齢化、担い手不足は深刻であり、冬期に通勤時間帯までの除雪完了を維持することが非常に困難な状況であることから、小学生へ除雪の重要性などを説明し、興味を抱いてもらうような活動を組合独自で行った。

3) SNSでの情報発信

今まで組合の活動については、情報提供が無く、活動状況について、どのように行うかが課題であった。平成29年度より、facebook、twitter、Instagramを通じて、作業内容や通行止めなどの情報提供を開始した。



8 まとめ

平成28年度の委員会の意見を踏まえて、平成29年度に初めての評価を実施した。

町村へのアンケート調査の結果を見ると概ね適正に執行されているが、一部安全対策や品質の確保に課題が残った。今後、改善策について検討を行う必要がある。また、町村ごとの評点をみると大きな差があり、差についてヒアリング等を行い改善していく。

自己評価については、受託者である宮下地区建設業協同組合と協議を重ねながら自己評価を行った。各社に作成を依頼した自己評価シートについては、各社とも記載に苦勞し何度も事務局と協議しながら作成した。自己評価について、各社ともに適正な体制を構築し執行されていた。このシートをもとに各社の勉強会を開催し、安全対策、品質、工夫した事例などの情報を共有し維持管理の向上を図っていく。

担い手育成や情報提供に関しては、組合では平成28年度の委員会での意見を踏まえ様々な取り組みを行っている。今後担い手の確保に向けて継続的に実施していく必要がある。

平成29年度の業務内容については、町村アンケート、自己評価ともに適正であり、新たな取り組みも積極的に実施しており評価できる。今後、評価方法等については内容を精査し関係機関や有識者の意見を踏まえ改善していく。